

令和6年12月議会 令和6年12月3日（火）～12日（木）

《主な議案》

●第76号議案 令和6年度 神川町一般会計補正予算

《主な内容》

①人件費（人事院勧告に伴う改定）	70,594千円
②一般管理費一般経費（人事給与システム）	330千円
③財務会計事務事業費（財務会計システム）	29千円
④公共施設整備基金利子積立金	481千円
⑤社会福祉総務費一般経費	1,387千円
⑥障害者総合支援事業費（介護給付・障害児通所給付費）	11,570千円
⑦児童福祉対策事業費（国返還金）	218千円
⑧低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付事業	1,147千円
⑨認定こども園整備事業（申請手数料）	165千円
⑩児童運営事業（国・県返還金）	1,531千円
⑪児童手当支給事業（国返還金）	340千円
⑫消防施設費（消化栓修繕工事）	2,420千円
⑬後期高齢者医療特別会計繰り出し金	928千円
⑭介護保険特別会計繰り出し金	3,072千円
⑮介護保険事業（地域介護・福祉空間整備）	3,586千円
⑯学校統合事業（統合に係る備品移動）	273千円
⑰給食センター管理運営費（給食材料費）	6,888千円

●報告 第8号 専決処分につき承認を求めることについて

衆議院議員 選挙費 9,444千円

●報告 第9号 専決処分により承認を求めることについて

工事請負費 3,729千円（神川町中央公民館 駐車場工事）

●第79号議案 神川町町営バス事業特別会計補正予算

（債務負担行為）

神川町営バス運行業務委託 令和7年度14,658千円 等全会一致可決

かみかわ民報

2025年1月発行

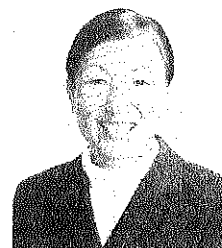
No. 38

日本共産党

連絡先

0495 (77) 2248

川浦 まさこ



生活相談も
しております！
お気軽に
ご相談ください♪



Pick up!

※日本共産党の見解を紹介します

- ・ 25年度予算案閣議決定。大企業優遇、国民生活は犠牲
- ・ 軍事費初の8兆円超！
- ・ 企業団体献金の全面禁止へ 皆さん力を合わせましょう！



●ひきこもり状態にある方やその家族が直面する課題について

【川浦】学校不登校者数過去最多という調査結果を国が発表しました。学齢期の児童生徒については学校等関係する機関による支援を継続していただきたい。今回は当事者が年齢も上がっている方について伺います。一度社会に出た方でも様々な理由で引きこもり状態になり、経済的には親の就労や年金等で生活されている方も少なくないと思われます。親亡き後には様々な方向からの困難が予測されます。まだまだ偏見や誤解が周りに、当事者にもある場合もあります。社会的環境の変化等から引きこもりの方の増加も懸念されますので、町としてのどのような予防、発見対策等の取り組みをし、今後どう広げてゆくのか伺います。

【町長】2023年3月公表の内閣府調査によると、引きこもり状態にある人は全国で約146人と推計されています。町で2022年に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果によると、家庭内に引きこもりの人がいると回答があったのは10件でしたが、全体の性格な数を把握することは困難な状態です。引きこもりになる年齢層も原因も様々で複雑な事情が絡み合っていることが多いのが現状です。相談先の周知においては、広報に相談機関を掲載する等家族の方が相談しやすい体制をとっておりません。ひきこもり状態にある方の把握につきましては、複数化で横断的連携をとり、相談や訪問、ケアマネージャー等からの情報に把握を行っています。支援については、精神疾患や発達障害、家庭環境、就労など複雑に関係していることが多いため、医療機関や臨床心理士など多職種との連携を図りながら、就労支援センターや生活支援センターなどを活用し、本人だけではなく家族も含め支援を行って

います。また、予防策として、妊娠期から中学校卒業までを妊娠期からのつながる支援とし、教育委員会や町内小中学校と連携し、発達障害児や不登校等により将来的なひきこもりにならないよう努めています。また、実態把握は、プライバシーの観点からこちらからは調査に入りにくいという面があります。難しいのは家族や当事者やSOSを出せない、また出したくないケースが多くあるということです。隣近所に知られたくないという方も多くいるかと思いますが、その辺は本庄保健所のひきこもり専門相談がありますのでそちらをご案内していきます。色んな角度から支援していきます。

●令和8年度開所予定の認定こども園について

【川浦】現在神川幼稚園を改修して幼保連携型認定こども園を開所する予定ですが、施設改修での大きく変わる内容と青柳保育所を閉園する事でこども園に移行する園児の体育着や持ち物等の変更点や保護者負担が増えるものがあるのか伺います。また、幼稚園では教育目標に基づいた幼児教育の推進があり、保育所では保育方針があります。ではこども園の方針や目標はどうなりますか。現在幼稚園も保育所も内容は大体同じ取り組みだと伺いました。各々目標や方針をもつて取り組んでいるけれど、言葉こそ違いますが、実践内容に違いはないということですか。

幼稚園は幼稚園教諭、保育園は保育士という別々の資格です。資格取得の過程も教材が違います。また、幼稚園は強制的で保育所は遊びの中で学んでいくとある保育教諭の方が行っておりません。また、認定こども園の2号認定3号認定の園児と丹荘保育所の2号認定3号認定の園児は同じ保育が受けられるのは、また、1号認定の幼児教育と推進はどう取り組むのか伺います。

【町長】大きく変わる点については、認定こども園は自園調理が原則です。で、調理室を園舎の北側へ増築します。そのため、安全な動線を確保する必要などから園バスは南側から進入し、園舎に横付けできるような外構等の整備も予定しています。園舎は間取りは現在のものをほぼ生かしますが、内外装とも全面改修を行い、防犯対策等も兼ね現在のテラス部分を屋内化し、子どもたちにとって快適な保育環境を整えます。また、駐車場も保護者の送迎を考慮し、定数確保します。現在幼稚園や保育所では、幼稚園教育要領や保育所保育指針に教育・保育を実施しております。子どもたちの在園、在所時間に差こそありますが、町では一日の生活や年間行事等には大きな違いはありません。子どもたちが使う備品等も両園の現状をすり合わせなるべく保護者の方に負担が少なくなる方法を検討していきます。

【町民福祉課長】現在も青柳と丹荘でまるつきり同じということではありませんが、こども園になって多少の違いがあるかと思いますが、基本的にはこども園において行う保育も大きく差のないよう実施していきます。1号認定の教育も確保していく中でトータル1日の流れはよく精査を詰めていきます。

●子育て支援PRと子育て世帯交流事業について

【川浦】神川町は学校給食費無償化や入学時のランリユック購入助成等多くの保護者負担軽減策があります。町外や都市部から自然と共生や持続可能な農業体験等、他の多くの自治体もやっています。神川町ならではの子育て世帯を中心とした交流事業はできないか。

現在の農業状況は農家の危機だけでなく、食をえる人の危機であり、自分事として農業を考えるきっかけをつくり、子育て支援も含めて神川町の魅力発信の企画はどうか伺います。

【町長】町では子育て支援策の充実に努め今年度も子育て世帯訪問支援事業や出産祝い金の拡充など新たな取り組みを開始しました。都市部との農業体験等の交流事業をとのご提案ですが、作付品種や時期、圃場に人が入ることによる汚染リスクの対策などを受け入れて頂ける農家の方の都合などもあり慎重に検討します。また農業利用は大事故だというお話もありました。本当に私もそう思います。本当はできれば理想は私は新しく住宅を造る方に農地につきの住宅とかそういうのも将来的に提供してやりたいなと思っていますが、今総合計画にありませんが、考え方にはそういうことでもあります。

